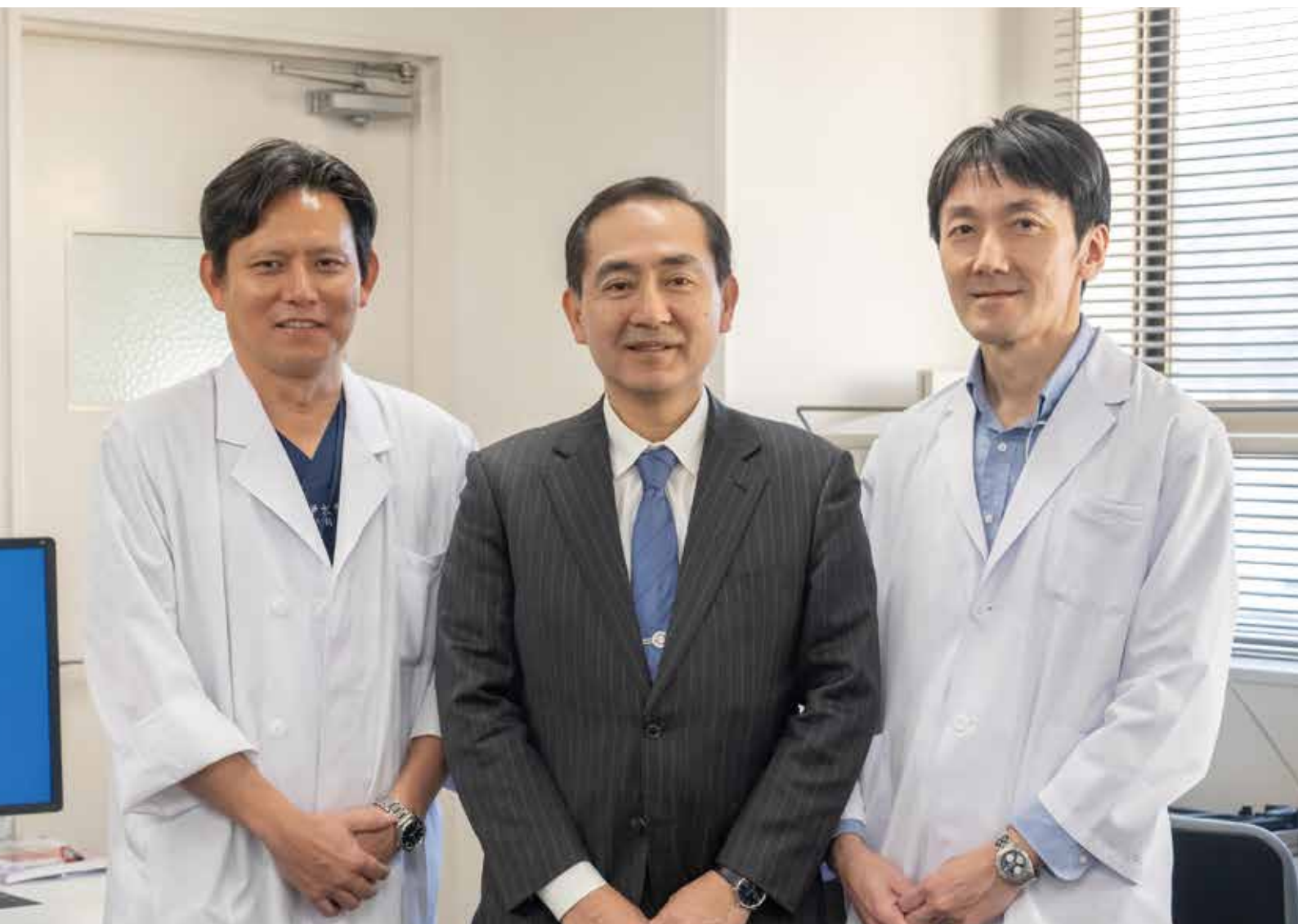


# くすのき タイムズ

KUSUNOKI TIMES



## 特 | 集

### スペシャルインタビュー

神戸大学医学部附属病院  
教授、診療科長

神戸大学医学部附属病院  
特命教授

神戸大学医学部附属病院  
特命准教授

村上 卓道 先生

山口 雅人 先生

野上 宗伸 先生

集学的医療を支える

## 「放射線診断・IVR科」

## CONTENTS

特集『スペシャルインタビュー』… 2・3

TOPICS『医療機関の皆様へ』…4

健康手帳『QOLを高める肥満症治療』…5

健康レシピ『くちどけ爽やか いちごの豆乳ムース』…6

お知らせ『当センターにおけるリンパ浮腫治療について』…7

当院のキャッチコピーは「神戸から世界へ。命を支える知と技術。」です。  
今後の広報活動に活用してまいりますので、ご期待ください。



神戸大学医学部附属病院  
Kobe University Hospital  
~神戸から世界へ。命を支える知と技術。~

## 「放射線診断・IVR科」



神戸大学医学部附属病院 特命教授 山口 雅人先生

神戸大学医学部附属病院 教授、診療科長 村上 卓道先生

神戸大学医学部附属病院 特命准教授 野上 宗伸先生

### あらゆる診療科を画像診断とIVRで支える

まずは、放射線診断・IVR科についてお聞かせください。

**村上:**放射線診断・IVR科は、CTやMRIなどによる画像診断と、画像をガイドにカテーテルや針などを用いて行う低侵襲治療の両面から医療を支える診療科です。

**山口:**IVRとはInterventional Radiologyの略で、放射線診断機器を用いた治療のことを指します。言葉だけだとわかりにくいのですが、X線透視やCT、超音波などで体の中を見ながら、カテーテルや針などの細い医療器具を体内に入れて治療を行う部門だといえば、なんとなくイメージが付きやすいかもしれませんね。日本語では「画像下治療」と訳され、低侵襲なのが特徴です。

近年はさまざまな診療科でIVRの技術が活用されているそうですね。

**村上:**最も症例数が多いのは、カテーテルを血管内に挿入し、出血している血管を詰めて止血する「塞栓術」と呼ばれる治療です。臓器や腫瘍からの出血に対して行われることが多く、救急医療の現場でも重要な役割を担っています。ほかにも、狭くなった血管を広げたり、針を刺して膿などを排出したり、

ラジオ波で病変を焼いたり、骨にセメントを注入したりと、全身のさまざまな臓器の病変に対して応用されています。がん治療をはじめ、血管の詰まりや動脈瘤などの血管系の疾患など、幅広い領域で活用されているのが特徴です。

**山口:**細かな作業が中心の診療科と思われがちですが、実際には非常にダイナミックな治療現場でも力を発揮する技術です。例えば交通事故による大量出血や、手術中の予期せぬ出血などに対してもIVRによる止血が行われており、救命医療の現場でも重要な役割を担っています。近年は医療機器や技術の発展もあり、IVRが担う領域はどんどん広がっていますね。私自身も、胸やお腹を大きく切らなくても治療できるという点に大きな魅力を感じており、今後はますますIVRが求められる現場が広がっていくのではないかと考えています。

放射線診断についてはいかがでしょうか？

**野上:**各科からの依頼を受けて、レントゲン・超音波検査・CT・MRI・核医学検査などを行い、画像診断医がそれぞれの画像を読み取り、担当医が病気の診断や治療法を決定するための支援を行っています。現代の現代医療において画像診断はどの診療科においても欠かせないものとなっていますから、年間CT約

神戸大学医学部附属病院 教授、診療科長 村上 卓道先生

1986年に神戸大学医学部を卒業。大阪大学大学院医学系研究科放射線医学教室助教授、近畿大学医学部放射線医学教室放射線診断学部門主任教授などを経て、2018年より神戸大学大学院医学研究科放射線医学分野教授に就任。日本医学放射線学会副理事長を務める。画像診断とIVRの発展をめざし、臨床・教育・研究の各面に尽力。世界をけん引できる組織づくりにも取り組んでいる。

神戸大学医学部附属病院 特命教授 山口 雅人先生

1998年に神戸大学医学部医学科を卒業。2006年に神戸大学大学院医学系研究科博士課程を修了し、放射線医学分野で研鑽を積む。現在は神戸大学医学部附属病院放射線診断・IVR科特命教授としてIVR診療を担当。日本IVR学会理事、日本医学放射線学会代議員を務めるほか、教育にも注力し、次世代のIVR育成にも力を注いでいる。

神戸大学医学部附属病院 特命准教授 野上 宗伸先生

1999年に神戸大学医学部医学科を卒業。2007年に神戸大学大学院医学系研究科博士課程を修了し、放射線医学分野で研鑽を積む。兵庫県立がんセンター放射線診断科医長などを経て、2018年より神戸大学医学部附属病院放射線部特命准教授。画像診断を専門とし、各診療科と連携しながら精度の高い診断と医療の質向上に尽力している。



### 人材育成にも注力し、医療環境の充実に貢献を

今後、神戸エリアでどのような役割を果たして行きたいと考えていますか？

**村上:**神戸大学医学部附属病院は地域の基幹大学病院ですので、地域の医療機関では対応が難しい症例を多く受け入れる必要があります。同時に、画像診断やIVRの領域が拡大する中で、人材育成に取り組むことも私たちの大きな使命だと思います。マンパワー不足の解消は、我々の今後の重要課題のひとつです。

**山口:**初期研修の時期に、一人でも多くの研修医に放射線科で学んでもらいたいですね。特に「医師にはなったけれど、まだやりたいことが見つからない」という研修医にぜひ来てもらいたいです。IVRの技術だけでなく、さまざまな診療科の診断・治療を学べる絶好の機会になると思います。

**野上:**放射線科で研修を受けると、どの検査で何がわかるかを理解できますし、放射線科のレポートの意味も深く理解できるようになります。他科とのコミュニケーションや治療方針の意思決定にも役立つ、大切な経験になりますよ。

最後に、地域の皆様にメッセージをお願いします。

**村上:**私たちは正確な画像診断と安全なIVR治療を通じて、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるよう日々努めています。今後も大学病院ならではの診療・研究・教育の三本柱をしっかり回すことで、日本の医療環境の充実に貢献して行きたいです。



51,000件、MRI約16,000件、PET約3,600件を超える検査に対応しています。我々の仕事で最も大切なのは「見逃さない」こと。あらゆる領域別診療に対応するため、各分野の専門グループが連携しながら、より正確な診断に向けて取り組んでいます。

**村上:**正しい診断がなければ、患者さんは適切な治療を受けられません。画像診断があるからこそ、薬物治療やIVR、手術などの治療が安全かつ的確に行えます。放射線科は、どの診療科にとっても欠かせない縁の下の力持ちです。

各診療科と密接に連携されているんですね。

**村上:**そうですね。診断とIVRの両面から関わることで、集学的医療の橋渡し役を果たせるのが私たちの強みです。例えばがん治療では、外科や腫瘍・血液内科、放射線腫瘍科と連携しながら、患者さんにとって最適なタイミングと方法で治療を提供できます。脳血管治療では脳神経内科や脳神経外科と協力し、出血や閉塞の早期対応につなげることも可能です。我々の仕事は単独で完結するのではなく、診断・治療・術前術後管理を含めたチーム医療の中で力を発揮できるのが大きな魅力です。

**山口:**病院内の診療科が縦糸だとすれば、私たちはそれをつなぐ横糸のような存在です。内科系・外科系の中間的な立場で全体を見渡しながらかつ各診療科の依頼をキャッチし、より正確で安心できる医療の提供につなげることが、私たちの大切な役割です。



# TOPICS

トピックス

## 医療機関の皆様へ

～WEB予約システムからの患者さんのご紹介について～



## パソコン・スマホ・タブレットから 当院の予約が可能になりました!

【予約対応診療科】2026年3月現在

整形外科・リハビリテーション科・呼吸器内科  
産科婦人科(婦人科)・消化器内科(胆膵・肝・IBD)  
循環器内科(初診一般・虚血・下肢)  
(順次拡大)

ご利用には  
事前のID登録が  
必要です

- 医療機関専用の予約システムのため、一般の方はご利用いただけません。
- 緊急性が高い、重篤な症状等、急ぎの対応が必要な場合は直接お問い合わせください。
- 未導入の診療科や医師を指名して予約をご希望の場合は従来のFAX予約をご利用ください。
- 初回は初診担当医が診察させていただき、次回予約時より専門医の診察になる場合があります。
- 利用登録申請は病院ホームページの申込フォームから。

【お問い合わせ先】

神戸大学医学部附属病院

患者支援センター地域連携部門 TEL：078-382-5522 MAIL：sienkoho@med.kobe-u.ac.jp

申込フォームはこちら  
詳細は病院HPから確認いただけます



### WEB紹介予約のメリット

- ✓ 24時間365日予約可能
- ✓ 空き枠が見える→問い合わせ不要
- ✓ 患者さんを待たせず予約票のお渡しが可能
- ✓ 診療情報提供書は当日中の送付でOK
- ✓ システム利用料金不要



# HEALTH RECORD

健康手帳

## QOLを高める肥満症治療

～減量外来、肥満症治療センターでの取り組み～

肥満症は、単に体重が多い状態ではなく、糖尿病、高血圧、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群、運動器疾患など、肥満に関連した健康障害を伴い、医学的な治療を必要とする病気です。これらの健康障害は、膝の痛みや日中の眠気など、さまざまな症状を引き起こすだけでなく、外出や仕事、家事などへの意欲低下にもつながり、生活の質(QOL)を下げる大きな要因となります。そのため、肥満症治療の目標は、単に体重を減らすことではなく、健康障害を改善し、その人らしい生活を取り戻すことにあります。

神戸大学医学部附属病院の減量外来、肥満症治療センターでは、食事療法・運動療法・行動療法を治療の基礎として、一人ひとりに合わせた内科的治療を行っています。管理栄養士による栄養相談、継続しやすい運動の提案に加え、体重記録や食行動の見直しなどを通して、無理なく生活習慣を整えていきます。まずは3～6か月で3%、高度肥満症では5～10%の減量を目標とし、達成後も健康状態に応じて目標を見直しながら治療を続けます。必要に応じて入院での検査や減量治療にも対応しています。

近年は内科的治療が大きく進歩し、新しい肥満症治療薬を活用できるようになりました。当院でも、持続性GLP-1受容体作動薬のウゴビー®、さらに持続性GIP/GLP-1受容体作動薬のゼップバウンド®といった薬剤を、ガイドラインに基づいて適切に使用しています。これらの薬剤は、食欲を抑えることで減量を後押しし、食事療法や運動療法と組み合わせることで、より高い治療効果が期待できます。一方で、誰でもすぐに使えるわけではなく、導入前には当院において一定期間の栄養指導を継続し、適応を十分に見極めたうえで開始します。薬を使い始めた後も、体調を確認しながら少しずつ増量し、継続して生活習慣改善を支えることが大切です。

さらに、内科的治療で十分な効果が得られない場合には、外科治療である減量・代謝改善手術も含めて検討します。私たちは、多職種・多診療科で連携しながら、患者さんに最も適した治療を提案し、肥満症によるつらさを軽くし、よりよい毎日につなげる支援を続けています。

文責：糖尿病・内分泌内科 准教授/肥満症治療センター 副センター長 廣田 勇士





# HEALTHY RECIPE

健康レシピ

春のおもてなし料理編

## 低エネルギーデザート編

### くちどけ爽やかいちごの豆乳ムース

暖かく過ごしやすい日が続き、心地よい春風薫る季節となりました。そんな華やかな季節にピッタリなデザート、「いちごの豆乳ムース」をご紹介します。

豆乳ヨーグルトは豆乳に乳酸菌を加えて発酵させた植物性のヨーグルトで、まろやかな味わいが特徴です。エネルギーはヨーグルトの約半分のため、1人分で約50kcalと低エネルギーのムースに仕上がりました。いちごの爽やかな甘さと調和し、しゅわっとしたくちどけが楽しめます。ぜひお試しください。



※写真の器は直径6.5cm、盛り付けは1人分です。

#### 材料(4人分)

(いちごの豆乳ムース)

いちご	120g(8粒)
豆乳ヨーグルト(無糖)	130g
マービースティック	①5.2g(4本) ②2.6g(2本)
卵白	4個分
粉ゼラチン	5g
水	20cc(大さじ1+小さじ1)

(飾り)

いちご	4粒
ミント	4枚

#### 作り方

【下準備】粉ゼラチンを水20ccでふやかす。いちごはミキサーにかけ、ピューレ状にする。

- 豆乳ヨーグルトにマービースティック①5.2g、いちごピューレを加えて混ぜる。
- ふやかしたゼラチンを湯煎(50~60℃)で温めて溶かし、①に混ぜる。  
(沸騰させたお湯に溶かすとかたまりにくくなるので注意)
- 卵白でメレンゲを作り、マービースティック②2.6gを加えて五分立てにする。  
(すくうとスーッと細く流れ落ちる程度)
- ②と③を混ぜ合わせてカップに入れ、冷蔵庫で1時間以上冷やしてムースを作る。
- ムースの上にいちごとミントを飾る。

計量の単位:大さじ1=15mL、小さじ1=5mL

#### 栄養量(1人分)

エネルギー	51kcal
たんぱく質	5.5g
脂質	0.8g
炭水化物	6.7g
糖質	4.7g
食物繊維	2.0g
食塩相当量	0.2g



- 乳製品不使用のため、乳アレルギーの方も安心してお召し上がりいただけます。豆乳が苦手な方でも、いちごの爽やかな酸味とやさしい甘さがアクセントになり、すっきりと食べやすくなっています。
- このレシピでは、低エネルギー甘味料として、砂糖に対する甘さ4倍相当の「マービースティック」(粉末)を使用しました。低エネルギー甘味料は種類によって甘さや栄養量が異なるため、表示をご確認ください。
- プレーンヨーグルトでも美味しくいただけます(栄養量が変わります)。

メニュー考案:エームサービス(株) 内田文洋、編集:栄養管理部 黒田美咲

食事・栄養についてのご相談は、月~金曜日に予約制で行っています。医師、看護師、管理栄養士にお申し出ください。

●栄養相談に関する問い合わせ先  
栄養管理部 ☎078-382-6820(直通)  
受付時間 平日9:30~17:00



# NOTIFICATION

お知らせ

## 当センターにおけるリンパ浮腫治療について ~兵庫県内で初の逐次型空気圧式リンパ流促進装置導入~

神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センター(ICCRC)では、神戸大学医学部附属病院と連携をとりリンパ浮腫治療を積極的に行っております。

この度、当センターでは日本国内初のリンパ浮腫治療用医療機器として2024年3月に厚生労働省により認められた逐次型空気圧式リンパ流促進装置(以下PLD:Pneumatic lymphatic drainage)(図)を、兵庫県では初めて導入しました。



世界では20年以上も前からリンパ浮腫の治療に空気ので患肢を圧迫する機器が治療に活用されてきたのですが、ようやく日本でもリンパ浮腫への治療効果が認められた医療機器ができました。それがPLDです。

リンパ浮腫は、リンパ管の異常によりリンパ輸送が障害され、皮膚・皮下組織内の組織間液量が過剰となり発症します。明らかな原因がなく発症する原発性リンパ浮腫と乳がん手術後に上肢に、婦人科がん手術後に下肢に発症する可能性がある続発性リンパ浮腫があります。原発性・続発性ともに、いったん発症すると完治させることは難しく、とくに重症化すると改善させることも難しくなります。発症早期からケアを開始し悪化させないことが重要です。

リンパ浮腫の治療法には、「複合的理学療法」と「外科治療」があります。複合的理学療法は①用手的リンパドレナージ②圧迫療法③運動療法④スキンケアなどを組み合わせて行われます。

当センターは、リンパ浮腫外来にてリンパドレナージセラピストにより用手的リンパドレナージ(保険外)やスリーブやストッキ

ングなどの弾性着衣の調整や圧迫療法の指導を行っています。リンパ浮腫の基本的知識の習得、運動療法、栄養指導などを通してリンパ浮腫治療の導入や見直しをしてもらうリンパ浮腫教育入院(保険)を行っています。外科治療はリンパ管静脈吻合術を行っています。うっ滞したリンパ液の流れを静脈に誘導する方法です。これらの治療は2019年から当センターで開始しております。今回、PLDを導入することで(保険外)さらにリンパ浮腫治療法の充実をはかり、幅広い年代の患者さんが通院や入院にて長期にわたる継続的な治療を行えるようにしています。当センターは発症早期からケアができる、症状の悪化したリンパ浮腫に悩む患者さんにも対応できる医療機関をめざして末永く患者さんと一緒に治療を行っていきたく考えています。

神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センター形成外科でまず保険診療を受診していただきます。

完全予約制の外来となっております。

◎医療関連専用電話は078-302-7167です。

(予約受付時間:8時30分~17時00分)

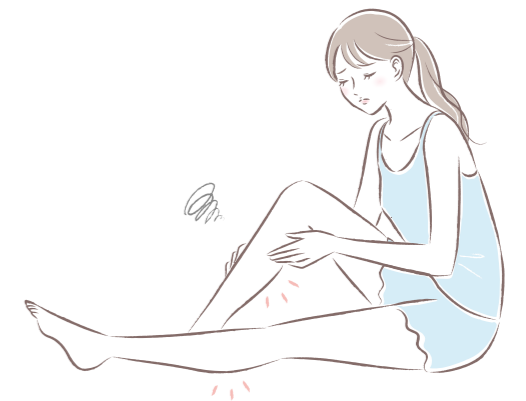
(休日、年末年始は除く)

◎患者様ご自身からのお電話でもご予約が可能ですので

078-302-7111までご連絡ください。

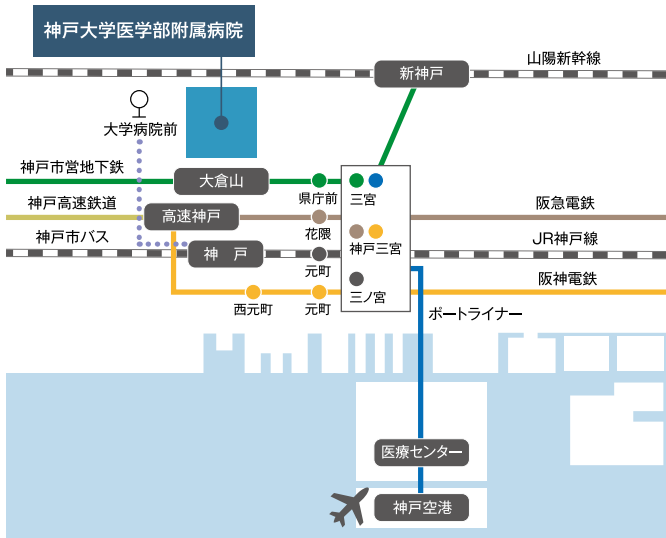
(予約受付時間:平日9時~16時)

保険診療の後日に、リンパ浮腫外来やPLDをご希望の方は自由診療枠で再度、外来予約をとらせていただきます。



# 神戸大学医学部附属病院 | 交通アクセス

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2 TEL.078-382-5111 FAX.078-382-5050  
<https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/index.html>

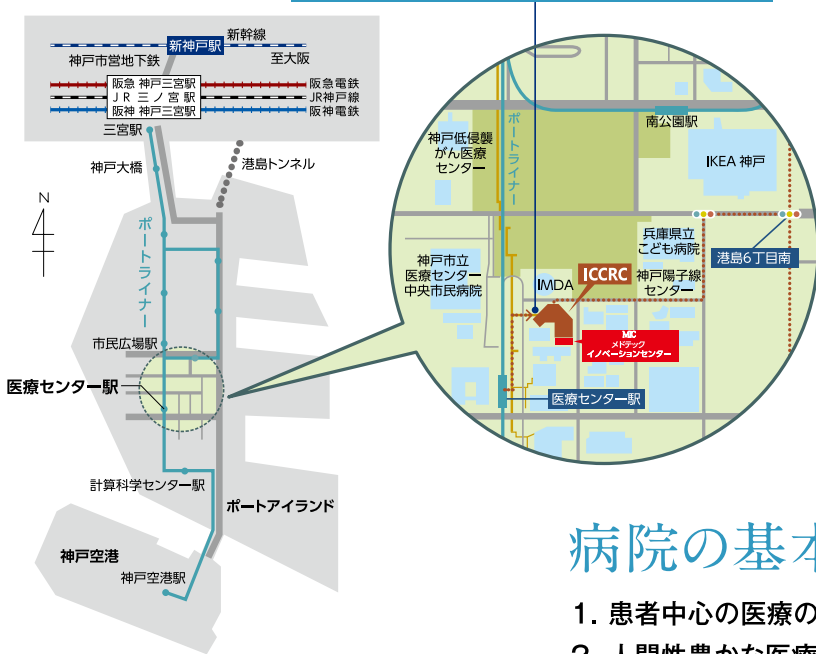


- | 電車をご利用の方   | バスをご利用の方   | タクシーをご利用の方   |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●神戸市営地下鉄「大倉山」駅下車 徒歩約5分</li> <li>●JR「神戸」駅下車 徒歩約15分</li> <li>●神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車 徒歩約15分</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●JR神戸駅前より神戸市バス 110系統もしくは112系統に乗車 約5分「大学病院前」バス停下車</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●JR神戸駅前より約5分</li> <li>●JR新神戸駅前より約10分</li> </ul> |

# 国際がん医療・研究センター | 交通アクセス

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目5-1 TEL.078-302-7015 FAX.078-302-7147  
<https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/iccrc/>

改札を出て右側のムービングウォークを直進し、  
 右手の直結歩道橋より受付(2F)へ



- | 電車をご利用の方  | 車をご利用の方   | 神戸空港をご利用の方   |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●三宮駅よりポートライナー「神戸空港行」乗車約12分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m</li> <li>●神戸空港駅よりポートライナー「三宮行」乗車約5分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●阪神高速3号線西行き「生田川」IC・東行き「京橋」ICから神戸大橋を渡りおおよそ15分</li> <li>※三宮東の港島トンネルも利用可能</li> <li>※1階駐車場を一般利用者として有料で利用可 最初の60分無料、以降1時間毎100円</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「神戸空港駅」からポートライナー「三宮行」乗車約5分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m</li> </ul> |

## 病院の基本理念

1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 先進医療の開発と推進
4. 地域医療連携の強化
5. 災害救急医療の拠点活動
6. 医療を通じての国際貢献